



Season 2026-27 subscription series *Booklet*

# TOKYO PHILHARMONIC



June. 2026



©上野隆文

本日はご来場いただき、まことにありがとうございます  
ここ東京で華やかに色づくオーケストラの調べを  
心ゆくまでお楽しみください

東京フィルハーモニー交響楽団

---

オフィシャル・サプライヤー

---

**SONY** **Rakuten Mobile** **MARUHAN** **LOTTE** **JP BANK** ゆうちょ銀行

公益財団法人 東京フィルハーモニー交響楽団は上記の企業から特別なご支援をいただいております。

第1032回サントリー定期シリーズ

6月18日(木) 19:00開演 サントリーホール

第1033回オーチャード定期演奏会

6月21日(日) 15:00開演 Bunkamura オーチャードホール

指揮・ヴァイオリン\*: ピンカス・ズーカーマン

コンサートマスター: 三浦章宏

6/18

6/21

モーツァルト:

歌劇『フィガロの結婚』序曲 K. 492 (約5分)

モーツァルト:

ヴァイオリン協奏曲第3番 ㊦長調 K. 216\* (約25分)

- I. アレグロ
- II. アダージョ
- III. ロンド: アレグロ

— 休憩(約15分) —

モーツァルト:

交響曲第40番 ㊦短調 K. 550 (約28分)

- I. モルト・アレグロ
- II. アンダンテ
- III. メヌエット: アレグレット トリオ
- IV. フィナーレ: アレグロ・アッサイ

主催: 公益財団法人 東京フィルハーモニー交響楽団

助成: 文化庁文化芸術振興費補助金(舞台芸術等総合支援事業(公演創造活動))|  
独立行政法人日本芸術文化振興会

協力: Bunkamura (6/21)



♪本公演は全席指定です。指定のお席にご着席ください。演奏開始間際の入場の際にはスタッフの案内で入場券記載とは異なる席への着席をお願いすることがございます。  
 ♪演奏中のご入場は、固くお断りいたします。楽章間のご入場は楽曲の進行によりスタッフのご案内いたします。入場いただけない場合もございますのでご了承ください。  
 ♪曲間・楽章間での退場につきましては、体調に不安がある場合など、無理せずご判断ください。その際、周りのお客様の鑑賞の妨げとならぬよう、ご配慮いただければ幸いです。  
 ♪演奏中に、時計やスマートフォンのアラーム音等が鳴らないよう、いま一度ご確認ください。  
 ♪演奏は最後の余韻まで余さずお楽しみください。早すぎる拍手や声援は他のお客様の鑑賞の妨げとなる場合がございますので、ご配慮くださいますようお願いいたします。終演後のカーテンコールも、マナーを守ってお楽しみください。

## 出演者プロフィール



©上野隆文

指揮・ヴァイオリン

ピンカス・ズーカーマン

Pinchas Zukerman, conductor &amp; violin

ピンカス・ズーカーマンは、50年の長きにわたりヴァイオリン奏者、ヴィオラ奏者、指揮者、そして室内楽奏者として世界の音楽界で不動の地位を築いている。そのヴィルトゥオージティ、豊かな表現、美しい音色、そして完璧なまでの音楽性は、21のグラミー賞ノミネート作を含む100枚を超える録音にも聴くことが出来る。

近年の活動としてメータ指揮ウィーン・フィル、シャニ指揮イスラエル・フィル、コロラド響、バレンシア管、グルベンキアン管、東京フィル、チューリッヒ室内管等への客演や、シンフォニア・ヴァルソヴィアとのスペイン・ツアー、ピアノのシャイ・ウォスナーとのリサイタル、チェロのアマンダ・フォーサイスを加えたズーカーマン・トリオ、カーネギーホールでのラハフ・シャニ、アマンダ・フォーサイスとの室内楽公演等が挙げられる。

これまでにナショナル・アーツセンター・オーケストラ音楽監督、ロイヤル・フィルハーモニー管首席客演指揮者、アデレード響アーティスト・イン・アソシエーションを歴任。音楽教育にも熱心に携わり、マンハッタン音楽学校では30年以上の長きにわたり後進の育成を行うなど、ズーカーマンから靈感を受けた多くの音楽家が演奏活動や教育活動、そして音楽祭等で中心的な役割を果たすなど各方面で活躍をしている。現在ダラス響芸術・首席教育パートナーとして南メソジスト大学・メドーズ音楽院でも教育活動を行っている。

## 楽曲紹介

解説=小宮正安

本日の演奏会、ヴォルフガング・アマデウス・モーツァルト(1756-1791)のオーケストラ作品が勢揃いしている。しかも一口に「オーケストラ作品」といっても、オペラの序曲、協奏曲、交響曲といった様々なジャンルの曲が並んでいるのが特徴だ。つまり、多彩なジャンルで作曲活動を繰り広げたモーツァルトならではの才気に溢れた仕事ぶりが、曲目を見ただけでもよく分かる。

さらに本日は、昨年に引き続いて、ズーカーマンが定期演奏会の指揮台に上る。前回同様、名ヴァイオリニストとして世界的キャリアを築いてきた彼のヴァイオリン独奏(モーツァルトの時代のように、弾き振りがおこなわれる予定である)と同時に、その指揮ぶりも堪能できるという、意欲的な演奏形態だ。しかも演奏をおこなう東京フィルは、ヨーロッパの多くのオーケストラのごとく、豊かな「歌」を最大のチャームポイントとしている。となれば、約束されたも同然だろう。極限までシンプルであり、それゆえに素晴らしい演奏が困難とされるモーツァルト作品の魅力が、ホール一杯に花開くことが。

### モーツァルト

#### 歌劇『フィガロの結婚』序曲 K. 492

モーツァルトが残した人気オペラの1つ『フィガロの結婚』。原作は、当時のフランスの劇作家カロン・ド・ボーマルシェ(1732-1799)の筆になる戯曲である。だが、頑迷で好色な領主に対して使用人たちが知恵を駆使して立ち向かう、という筋書きは、保守的な貴族たちの感情を逆なでする危険性を帯びていた。

それでも、オーストリアの都ウィーンで宮廷劇場詩人として活躍していたロレンツォ・ダ・ポンテ(1749-1838)が、上演にあたって差しさわりのある要素を巧みに和らげ、オペラ用の台本を仕上げた。また、時の皇帝ヨーゼフ2世(1741-1790)が改革的な君主だったおかげで、宮廷劇場での初演が実現した。

というわけで、そのようなオペラのためにモーツァルトが仕立てた序曲も、きわめて機智に富んでいる。一聴したところ、オペラ上演の中心であった宮廷劇場に集う貴人好みの華麗さや愉悅に満ちているものの、実のところ一筋縄ではゆかない。

たとえば序曲の冒頭、身分制社会の中を巧みに立ち回る使用人の姿と重なり合うかのようにファゴットと弦楽器が細かな動きを見せる。しかもこの動きに乗って有名なテーマが登場するものの、これもテーマと呼ぶにはあまりにも動きや表情の変化が激しい。「プレスト(急いで)」と指示されたテンポ設定も、こうした内容をさらに切迫したものにする。

貴族社会の伝統に一見従うようでありながら、新たな時代の作法をしたたかに身につけていたモーツァルトと同時代人たち。そんな面々の生き方が写し出されたかのような一曲だ。

【作曲年代】 1785-86年

【初演】 1786年5月1日、ウィーン、ブルク劇場にて、作曲者自身の指揮、宮廷劇場管弦楽団による

【楽器編成】 フルート2、オーボエ2、クラリネット2、ファゴット2、ホルン2、トランペット2、ティンパニ、弦楽5部

## モーツァルト ヴァイオリン協奏曲第3番 ト長調 K. 216

モーツァルトが19歳となった1775年、1年足らずの間に集中的に作曲されたヴァイオリン協奏曲中の1曲である。

モーツァルトは当時、故郷ザルツブルクの宮廷楽団で第二コンサートマスターを務めていた。生前の彼は、鍵盤楽器と並んでヴァイオリン演奏の腕前も超一流であり、この協奏曲からもヴァイオリンに対する造詣の深さがうかがえる。

またモーツァルトは1774年から1775年にかけて、隣国バイエルンの都であるミュンヘンに自作のオペラ上演のために滞在し、その地で流行していた華麗なフランス音楽の洗礼を受けた。そうした影響が、当ヴァイオリン協奏曲の典雅な響きにも

表れている。

なお各楽章には、ヴァイオリン独奏者の腕前を見せる独奏部分(カデンツァ)が想定されているが、モーツァルトはその箇所を作曲していないため、どのような演奏をおこなうかは独奏者に任されている。ズーカーマンがどうするのかも、聴きどころだ。

### 第1楽章：アレグロ、ト長調、4分の4拍子

冒頭に登場する第1主題のメロディは、同年の4月にザルツブルクで初演された自作の祝典劇『羊飼いの王様』に登場するアリアに基づいている。

### 第2楽章：アダージョ、二長調、4分の4拍子

美しいヴァイオリン独奏の響きは言うまでもない。オーボエの代わりにフルートが用いられ(モーツァルトが書いた全5曲のヴァイオリン協奏曲中、フルートが登場するのはこの楽章のみ)、弦楽合奏が弱音器を付け、チェロとコントラバスがピッツィカート奏するといった具合に、実験的な響きがオーケストラに用いられているのも聴きどころだ。

### 第3楽章：ロンド アレグロ、ト長調、8分の3拍子

フランスから影響を受けたポプリ(メドレー)風の形式で、楽しい民謡風の響きが出現するいっぽう、ところどころで翳りを帯びるのがモーツァルトのモーツァルトたる所以。後半部に出現するアレグレットの旋律は、当時流行していたフランス発のポピュラーな民謡(シユトラスブルガー)から引用されており、楽章の最後はオーボエとホルンの響きの中で静かに終わるといふ意外性が光る。

【作曲年代】1775年

【初演】不明

【楽器編成】フルート2、オーボエ2、ホルン2、弦楽5部、独奏ヴァイオリン

## モーツァルト 交響曲第40番 ト短調 K. 550

6 / 18  
6 / 21

故郷ザルツブルクでの宮仕えを辞し、ウィーンを本拠地とし始めてから7年を経た1788年、32歳のモーツァルトは新作交響曲を3つ手掛ける。いわゆる「後期三大交響曲」と呼ばれる、交響曲第39・40・41番だ。

従来の多くのモーツァルト伝では、この時期モーツァルトは名声を失って没落し、借金まみれの生活の中で心身ともに健康を害していった、ということが言われてきた。「後期三大交響曲」についても、初演の記録が残っていないため、あてもない将来に向けて彼が自分の悲痛な内面を吐露した孤高の作品、という見方が一般的だった。

ただし現在では、この頃のモーツァルトはハプスブルク家の室内作曲家に任命され、次なる音楽活動に向けて意気揚々と歩み出そうとしていたことが明らかにされつつある。しかも、例えばヴァイオリン協奏曲第3番の第2楽章にも現れた実験精神を、ますます前面に出した作品を発表するようになっていった。

特に目立つのが、この交響曲では、クラリネット付きの版となしの版が存在するという点(今回はクラリネットありの版で演奏される)。元々クラリネットは軍楽隊の楽器であり、宮廷音楽にルーツを持つ交響曲に取り入れられるようになったのは18世紀後半のことだった。またそうした事情から、当時は「特殊楽器」としての性格が強かったクラリネットの扱いに関し、モーツァルトがきわめて柔軟な姿勢そなを具えていたことがよく分かる(なお交響曲第40番の直筆譜を見ると、ホルンを4本用いるという特殊な構想が目論まれたものの、結局2本に落ち着いたことも分かる)。

そのように考えると、当作品がト短調という異例の調性で書かれている理由も理解できる。何しろモーツァルトの生きていた時代、ト短調は死や絶望を予感させる調と考えられていた。旺盛な実験精神だけではない、その向こう側に黒々と口を開ける異界への眼差し……。これもまた、モーツァルトの才気の為せる技ではなかったか。

**第1楽章：モルト・アレグロ、ト短調、2分の2拍子**

ソナタ形式。ヴィオラが絶え間なく刻む8分音符の和音に乗って、焦燥感に溢れた第1主題を第1ヴァイオリンが奏でる出だしが、深い印象をもたらす。

**第2楽章：アンダンテ、変ホ長調、8分の6拍子。**

ソナタ形式の緩徐楽章。全曲中唯一長調で書かれた楽章だが、ある程度曲が進むまで調性がどこに向かうのか分からないという不安感が顕著である。

**第3楽章：メヌエット、ト短調、4分の3拍子**

通常4小節ないし8小節が基本の主旋律が、随処で3小節や2小節で書かれており、あえてぎこちなさが強調される。中間部のトリオは平穏なト長調だが、夢幻の如く過ぎ去る。

**第4楽章：アレグロ・アッサイ、ト短調、2分の2拍子**

ソナタ形式。第1主題の途中に現れる「タ・ターツ」という音型は、オペラ『フィガロの結婚』の中でも用いられた、権力や運命の威嚇に似ている。しかも第2主題は束の間の慰めをもたらすかのように変ロ長調で書かれているが、再現部ではト短調のほの暗い響きに取って代わってしまう。ここは当然長調になるだろう……と期待していた聴衆に不意打ちを与え、心をかき乱させる作戦に他ならない。

【作曲年代】1788年

【初演】不明

【楽器編成】フルート、オーボエ2、クラリネット2、ファゴット2、ホルン2、弦楽5部

こみやまさやす／ヨーロッパ文化史研究家。横浜国立大学 大学院都市イノベーション研究院 都市科学部教授。著書に『コンスタンツェ・モーツァルト <悪妻>伝説の虚実』（講談社選書メチエ）、『もっときわめる！ 1曲1冊シリーズ 7 リヒャルト・シュトラウス《ばらの騎士》』（音楽之友社）、『モーツァルトが駆け抜けた時代』（春秋社）など多数。

The 1032nd Suntory Subscription Concert  
**Thu. June 18, 2026, 19:00 at Suntory Hall**

The 1033rd Orchard Hall Subscription Concert  
**Sun. June 21, 2026, 15:00 at Bunkamura Orchard Hall**

**Pinchas Zukerman, conductor & violin\***

Akihiro Miura, concertmaster

**Mozart:**

**Overture to the opera**

“Le nozze di Figaro”, K. 492 (ca. 5 min)

**Mozart:**

**Violin Concerto No. 3 in G major, K. 216\*** (ca. 25 min)

- I. Allegro
- II. Adagio
- III. Rondeau: Allegro

— intermission (ca. 15 min) —

**Mozart:**

**Symphony No. 40 in G minor, K. 550** (ca. 28 min)

- I. Molto allegro
- II. Andante
- III. Menuetto: Allegretto - Trio
- IV. Finale: Allegro assai

Presented by Tokyo Philharmonic  
 Subsidized by the Agency for Cultural Affairs Government of Japan |  
 Japan Arts Council  
 In Association with **Bunkamura** (June 21)



- ♪ All seats are reserved. Late admittance will be refused during the live performance. If you enter or reenter just before the concert or between movements, we may escort you to a seat different from the one to which you were originally assigned.
- ♪ Exiting during the performance will be tolerated. If you do not feel well, please exit or enter as you need. However, please mind the other listeners so that they will be minimally disturbed.
- ♪ Please refrain from using your cellphone or other electronic devices during performance.
- ♪ Please cherish the "afterglow" at the end of each piece for a moment before your applause.

## Artist Profile



©Takafumi Ueno

Pinchas Zukerman,  
conductor & violin

18  
June

21  
June

With a celebrated career encompassing five decades, Pinchas Zukerman reigns as one of today's most sought after and versatile musicians - violin and viola soloist, conductor, and chamber musician. He is renowned as a virtuoso, admired for the expressive lyricism of his playing, singular beauty of tone, and impeccable musicianship, which can be heard throughout his discography of over 100 albums for which he gained two Grammy® awards and 21 nominations.

Recent highlights include, performances with the Vienna Philharmonic under Zubin Mehta, Israel Philharmonic led by Lahav Shani, Colorado Symphony, Orchestra of Valencia, Gulbenkian Orchestra, the Tokyo Philharmonic, Zurich Chamber Orchestra, and a Spanish tour with Sinfonia Varsovia. Chamber concerts including the recitals with pianist Shai Vosner, concerts with the Zukerman trio, and performance with Lahav Shani and Amanda Forsyth at Carnegie's Zankel Hall.

A devoted teacher and champion of young musicians, he has served as chair of the Pinchas Zukerman Performance Program at the Manhattan School of Music for over 30 years. He has served as the Dallas Symphony Orchestra's Artistic and Principal Education Partner since 2021, collaborating with DSO in partnership with Southern Methodist University's Meadows School of the Arts.

# Program Notes

Text by Robert Markow

## Mozart: Overture to the opera "Le nozze di Figaro", K. 492

“Is there any music in all the world as fresh as the Overture to *The Marriage of Figaro*?,” asks Edward Downes in his New York Philharmonic annotation. From the first quiet murmur of the cellos and double basses to the last brilliant fanfare of horns, trumpets and drums, the *Figaro* overture represents the kind of music of which Salieri, aghast in wonderment, spoke in the film *Amadeus*: “Displace one note and there would be diminishment; displace one phrase and the structure would fail!”

*The Marriage of Figaro* received its premiere at Vienna’s Burgtheater on May 1, 1786 to a mixed reception, but it was Prague that truly took this comedy of manners to its heart. Mozart attended a performance there less than a year after its Viennese premiere and reported: “I looked on with the greatest pleasure while all these people flew about in sheer delight to the music of my *Figaro* ... they talk of nothing but *Figaro*. Nothing is played, sung or whistled but *Figaro*. No opera is drawing audiences like *Figaro*.” Introducing this great work of mirth and truth is a four-minute overture of scintillating brilliance, irrepressible charm and formal perfection.

**WOLFGANG AMADEUS MOZART:** Born in Salzburg, January 27, 1756; died in Vienna, December 5, 1791

**Work composed:** 1785-86 World premiere: May 1, 1786 at the Burgtheater in Vienna, conducted by the composer

**Instrumentation:** 2 flutes, 2 oboes, 2 clarinets, 2 bassoons, 2 horns, 2 trumpets, timpani, strings

## Mozart: Violin Concerto No. 3 in G major, K. 216

Mozart, at the age of nineteen, spent most of the year 1775 in the service of Count Colloredo, Archbishop of Salzburg. Here, within the period of eight months, he wrote four of his five authentic violin concertos (No. 1 was

composed probably in 1773; two additional spurious ones exist). We are not certain whether they were initially intended for Mozart's own use as a soloist or not, though he certainly performed them all at one time or another.

In style, these works grow out of the Italian violin tradition, as found in Tartini, Geminiani, Nardini and Boccherini. The music is steeped in the qualities of the *style galant* – grace, elegance, charm and gentle sentiments. The third, completed on September 12, 1775, just three months after the second, represents an enormous advance over the mere rococo prettiness of the first two concertos.

The Mozart biographer and scholar Alfred Einstein comments as follows: “What had happened in the three months that separate the second concerto from the third? We do not know. Suddenly there is a new depth and richness to Mozart's whole language. ... Suddenly the whole orchestra begins to speak, and to enter into a new, intimate relation with the solo part. Nothing is more miraculous in Mozart's work than the appearance of this concerto at this stage in his development.”

The first movement opens with the expected orchestral *ritornello* exposing the principal themes. The movement is written in the classic sonata-allegro form. In fact, everything about the movement is classic – in its perfectly balanced phrases, sense of symmetry, effortless flow and poise.

The *Adagio* has inspired numerous commentators to heights of praise. Einstein says that “it seems to have fallen straight from heaven.” John Burk, in his Mozart monograph (1959) wrote that it “attains a new height as, under its *cantilena*, the orchestra – in muted triplets, with pizzicato bass – supersedes the rather straightforward accompaniment of the earlier slow movements.” And Edward Downes calls it music “of such ravishing beauty that one can only bow one's head and be thankful.” The concerto is scored for pairs of oboes and horns plus strings (as are all Mozart's violin concertos), but in this *Adagio* flutes replace oboes, lending a softer, gentler quality to the orchestral sonority. (In Mozart's day, it was really no extravagance to require the flutes for just one movement and oboes for the other two, as both instruments were often played by the same musicians.)

The final movement is a cheerful rondo filled with smiling, insouciant melodies, suave orchestration and suggestions of Austrian and German folksongs.

Work composed: 1775 World premiere: No date  
Instrumentation: 2 flutes, 2 oboes, 2 horns, strings, solo violin

## Mozart: Symphony No. 40 in G minor, K. 550

An aura of reverence, mystery and romantic fantasy surrounds Mozart's penultimate symphony. Of its creation we know nothing aside from the fact that it was written, along with Symphonies Nos. 39 and 41, during the incredibly brief period of six weeks in the summer of 1788. Composers in this age composed only to order. Without a performance in sight, music simply wasn't written. It was conceived as a product for immediate consumption, not as, in biographer Alfred Einstein's words, "an appeal to eternity." Yet Mozart's last three symphonies seem to have been written with no prospect of a performance, and, in the case of Nos. 39 and 41, we are quite certain that Mozart never did hear them played. (Perhaps they were written for concerts that never materialized.)

The case of No. 40 is a bit different from the other two. It used to be fashionable to bemoan the fact that none of these last three symphonic masterworks was played in Mozart's lifetime. If such was the case, then why would the composer have bothered to revise the G-Minor Symphony three years after it was written by adding a pair of clarinets and rewriting the oboe parts to accommodate the additional voices? Though incontrovertible evidence is still lacking, scholars today feel fairly certain that Symphony No. 40 was indeed played at least once, at a concert on April 16, 1791, conducted by none other than the (now) much-maligned Antonio Salieri. Lending credence to this speculation is the fact that Mozart's friends, the clarinetists Anton and Johann Stadler, played in this concert. Most performances use the later version with clarinets.

It is virtually impossible to ignore the biographical background against which the symphony was written, which included a rapidly waning career in Vienna and financial woes. Pitts Sanborn notes that "though all of us might not go so far, there is no doubt that this symphony is touched with the ineffable sadness that sometimes crosses like a summer cloud the radiance of Mozart's sun-god temperament."

To some listeners, these sentiments smack of romantic fantasy. After all, one must remember that the radiant and affirmative Symphonies Nos. 39 and 41 were written concurrently with No. 40. But No. 40 is “romantic” in other ways as well. It is a harbinger of what was to follow in Beethoven and the symphonies of the nineteenth-century, what we call the “Romantic” period of music history. The high level of dissonance in this symphony (there is even a Schoenbergian twelve-tone row embedded in the finale), the pronounced use of counterpoint, the angular lines, the highly personalized visions in which the composer “bares his soul,” the persistence of the minor tonality, and the sheer intensity of emotional outpouring all point to music of the nineteenth century. Even the apparent lack of financial remuneration or the prospect of immediate performance earmark this work for an era when an artist created from divine inspiration or because an inner muse drove him on. The fact that it was created near the end of a tragically short life beset with endless harassments and tribulations has further fueled the romantic attachment to this symphony.

No finer tribute could be paid Mozart’s G-Minor Symphony than to note that it speaks meaningfully and deeply to every listener without need of verbal commentary. Perhaps some insight to its lasting appeal and supreme craftsmanship can be gleaned from the composer’s own words regarding musical expression, written to his father during the composition of the opera *Die Entführung aus dem Serail*: “The passions, whether violent or not, must never be expressed so strongly as to disgust, and music, even in the most frightful situations, must never offend the ear, but is even then to give pleasure.”

**Work composed:** 1788 **World premiere:** No date

**Instrumentation:** flute, 2 oboes, 2 clarinets, 2 bassoons, 2 horns, strings

Formerly a horn player in the Montreal Symphony, **Robert Markow** now writes program notes for numerous orchestras and other musical organizations in North America and Asia. He taught at Montreal’s McGill University for many years, has led music tours to several countries, and writes for numerous leading classical music journals.

18  
June

21  
June

## Season 2026-27 Upcoming Subscription Concerts

The Tokyo Philharmonic's 2026-27 season has a rich array of masterpieces that capture the true essence of orchestral music awaits audiences. Please join us on our musical journey and enjoy every concert, filled with musical joy, together with the Tokyo Philharmonic.

<p>July 2026</p>	<p><b>Thu, Jul 23, 2026, 19:00 start</b> at Suntory Hall</p> <p><b>Sun, Jul 26, 2026, 15:00 start</b> at Bunkamura Orchard Hall</p> <p><b>Wed, Jul 29, 2026, 19:00 start</b> at Tokyo Opera City Concert Hall</p>	<p>Conductor: Myung-Whun Chung <i>Honorary Music Director</i></p> <p>Carmen: Stéphanie d'Oustrac Don José: Matthew Polenzani Escamillo: Andrii Kymach * Micaëla: Slávka Zámečnicková Zuniga: Yoshiaki Kimura Moralès: Hiromichi Kobayashi Le Dancaire: Tatsuhiko Kitagawa Le Remendado: Kota Murakami Frasquita: Airi Sunada Mercédès: Asami Fujii Chorus: New National Theatre Chorus (Chorusmaster: Kyohei Tomihira) Children Chorus: Setagaya Junior Chorus (Children Chorusmaster: Midori Kakee) Flamenco: Compañía de Ballet Español Kaori Haeno (Choreography by Kaori Haeno / Dancers: Kaori Haeno, Keiko Inoue, Yoshie Tani, Haruhiko Okuhama)</p> <p>*The cast has changed from originally announced lineup.</p>
<p>Bizet: Opera "Carmen" (concert style)</p>		<p><b>Sold out</b></p>

### "Carmen" Announcement of cast change

The originally scheduled bass singer, Nicolas Courjal, is obliged to withdraw from the role of Escamillo in Bizet's *Carmen* at July Subscription Concerts for personal reasons. In his stead, Andrii Kymach will appear as Escamillo.

**Andrii Kymach** A baritone from Ukraine, Andrei Kymach won the BBC Cardiff Singer of the World competition in 2019. In the 2025/26 season, his engagements include Shchelkalov in *Boris Godunov* at the Royal Opera House, Ford in *Falstaff* at the Hamburg State Opera, the title role in *Eugene Onegin* at the Norwegian National Opera & Ballet, and Giorgio Germont in *La Traviata* with Opera Australia. This June, he also appears as Escamillo in *Carmen* at La Scala in Milan, conducted by Myung-Whun Chung.



© Oleksandr Andrushchenko

### Ticket Prices

( )=Discount prices for TOKYO PHIL FRIENDS

SS¥15,000 S¥10,000(¥9,000) A¥8,500(¥7,650) B¥7,000(¥6,300) C¥5,500(¥4,950)

**How to join TOKYO PHIL FRIENDS** ⇒ <https://www.tpo.or.jp/en/tickets/friends.php>

# Season 2026-27 Upcoming Subscription Concerts

August 2026	<p><b>Thu, Aug 6, 2026, 19:00 start</b> at Tokyo Opera City Concert Hall</p> <p><b>Tue/Holiday, Aug 11, 2026, 15:00 start</b> at Bunkamura Orchard Hall</p>	<p>Conductor: Ken-Ichiro Kobayashi Violin: Keila Wakao</p>
	<p>Mendelssohn: Violin Concerto Rimsky-Korsakov: Symphonic suite “Scheherazade”</p> <p style="text-align: right;">Single tickets available</p>	
October 2026	<p><b>Thu, Oct 15, 2026, 19:00 start</b> at Suntory Hall</p> <p><b>Fri, Oct 16, 2026, 19:00 start</b> at Tokyo Opera City Concert Hall</p> <p><b>Sun, Oct 18, 2026, 15:00 start</b> at Bunkamura Orchard Hall</p>	<p>Conductor: Myung-Whun Chung <i>Honorary Music Director</i> Violin: Maxim Vengerov</p>
	<p>Sibelius: Violin Concerto Beethoven: Symphony No. 7</p> <p style="text-align: right;">Single tickets available</p>	
November 2026	<p><b>Sun, Nov 15, 2026 15:00 start</b> at Bunkamura Orchard Hall</p> <p><b>Mon, Nov 16, 2026, 19:00 start</b> at Tokyo Opera City Concert Hall</p>	<p>Conductor: Mikhail Pletnev <i>Special Guest Conductor</i></p>
	<p>Pletnev: 14 Mémoires musicales (2024) Tchaikovsky: Symphony No. 4</p> <p style="text-align: right;">Single tickets available</p>	
January 2027	<p><b>Thu, Jan 21, 2027, 19:00 start</b> at Suntory Hall</p> <p><b>Mon, Jan 25, 2027, 19:00 start</b> at Tokyo Opera City Concert Hall</p>	<p>Conductor &amp; Bassoon: Sophie Dervaux</p>
	<p>Mozart: Overture from opera “The Magic Flute” Weber: Bassoon Concerto (The 200th anniversary of Weber’s death) Brahms: Symphony No. 1</p> <p style="text-align: right;">Single tickets available</p>	
February 2027	<p><b>Thu, Feb 18 2027, 19:00 start</b> at Tokyo Opera City Concert Hall</p> <p><b>Wed, Feb 24, 2027, 19:00 start</b> at Suntory Hall</p>	<p>Conductor: Myung-Whun Chung <i>Honorary Music Director</i> Piano: Saehyun Kim</p>
	<p>Beethoven: Piano Concerto No. 4 (The 200th anniversary of Beethoven’s death) Saint-Saëns: Symphony No. 3 “Organ”</p> <p style="text-align: right;">Single tickets available</p>	

## Inquiries about tickets

Tokyo Phil Ticket Service tel: 03-5353-9522  
(weekdays 10:00-18:00, closed on weekends and holidays)

Tokyo Phil WEB Ticket Service <https://www.tpo.or.jp/en/>



# 東京フィルだより -2026-27シーズン 今後の定期演奏会

## 7月定期演奏会

予定枚数終了

第1034回サントリー定期シリーズ

7月23日(木) 19:00 サントリーホール

第1035回オーチャード定期演奏会

7月26日(日) 15:00 Bunkamuraオーチャードホール

第175回東京オペラシティ定期シリーズ

7月29日(水) 19:00 東京オペラシティ コンサートホール

指揮: チョン・ミョンフン (名誉音楽監督)

カルメン: ステファニー・ドゥストラック

ドン・ホセ: マシュー・ポレンザーニ

エスカミーリョ: アンドリー・キマチ(※)

ミカエラ: スラーフカ・ザメチニーコヴァー

合唱: 新国立劇場合唱団 (合唱指揮: 富平恭平)

児童合唱: 世田谷ジュニア合唱団 (児童合唱指揮: 掛江みどり)

フラメンコ: 南風野香スペイン舞踊団 (出演: 南風野香 [振付]、井上圭子、谷 淑江、奥濱春彦) ほか

※当初の発表から変更となりました。出演者の詳細はp24もご参照ください

## ビゼー／歌劇『カルメン』

全3幕・日本語字幕付き原語(フランス語)上演／公演時間: 約3時間(休憩含む)



## 8月定期演奏会

1回券発売中

第176回東京オペラシティ定期シリーズ

8月6日(木) 19:00 東京オペラシティ コンサートホール

第1036回オーチャード定期演奏会

8月11日(火・祝) 15:00 Bunkamuraオーチャードホール

指揮: 小林研一郎

ヴァイオリン: 若尾圭良\*

メンデルスゾーン／ヴァイオリン協奏曲\*

リムスキー=コルサコフ／交響組曲『シエラザード』



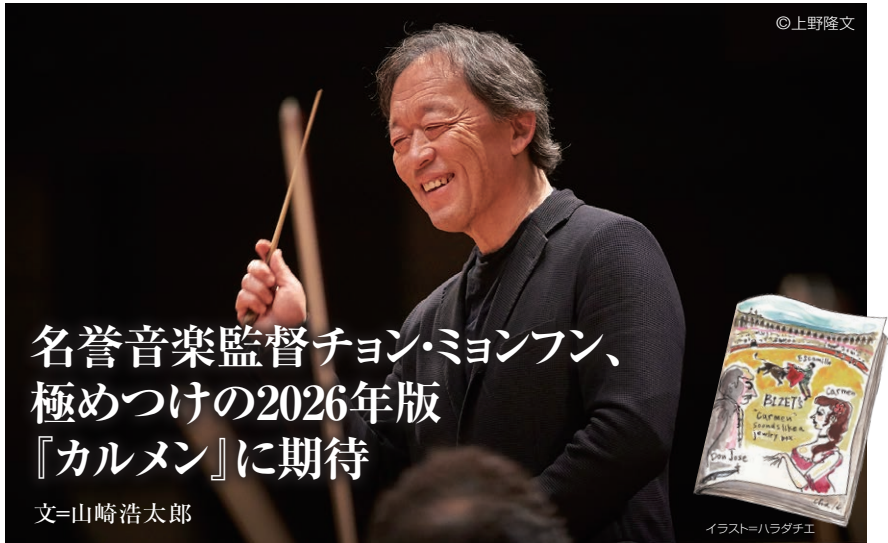
【料金】1回券 SS席¥15,000 S席¥10,000 A席¥8,500 B席¥7,000 C席¥5,500

※東京フィルフレンズ(年会費無料・随時入会受付中)入会で、定価の10%割引で購入いただけます(SS席を除く)

お申込み・お問合せは  
東京フィルチケット  
サービスまで

03-5353-9522 (10時～18時／発売日を除く土日祝休)  
<https://www.tpo.or.jp/> (24時間受付・座席選択可)

## 7月定期演奏会の聴きどころ②



©上野隆文

## 名誉音楽監督チョン・ミョンフン、 極めつけの2026年版 『カルメン』に期待

文=山崎浩太郎

イラスト=ハラダチエ

いよいよ7月に迫ったチョン・ミョンフン指揮によるビゼー『カルメン』（オペラ演奏会形式）。4月にはKBS交響楽団で、6月には来年から音楽監督を務めるミラノ・スカラ座でも上演される<チョン・ミョンフンの『カルメン』>が、7月に東京上陸。スカラ座のキャストを引き連れて国内屈指の実力派が脇を固め、日本中の音楽ファンが注目する至高の公演がいよいよ開幕です。

### 日本では3回目の『カルメン』

チョン・ミョンフン指揮の『カルメン』を初めて観たのは、2004年の藤原歌劇団による東京文化会館での舞台上演だった。フランス国立放送フィルハーモニー管弦楽団がピットに入り、指揮者の実力と声望の高さを実感させる、充実した公演だったことをいまでもよく憶えている。

今回の東京フィルによる演奏会形式上演は、2020年2月の公演に続いて、チョン・ミョンフンによる日本で3回目の『カルメン』ということになる。これまで指揮していなかったというヴェルディの『ファルスタッフ』を2022年に取りあげ、人間性豊かな喜劇を指揮して音楽の幅と深さを広げたマエストロは、『カルメン』の音楽から、今度はどんなドラマを新たに引き出してくれるだろうか。



2022年10月定期、ヴェルディ『ファルスタッフ』より ©上野隆文

## マエストロ チョン・ミョンフン、『カルメン』づくしの2026年

昨年2025年は、ビゼー没後250年の記念年だった。しかしマエストロにとっては、今年こそがビゼーの年、『カルメン』の年らしい。

というのは、この東京フィルとの7月の演奏会形式上演に先立って、6月にはミラノ・スカラ座でダミアノ・ミキエレット演出による新制作の舞台上演を10回指揮しているからだ。2027年からの次期音楽監督の登場だけに、観客の関心もととりわけ高いものになるだろうが、重要なのは、この公演の主役たちが東京フィル公演と同じであることである。

カルメン、ドン・ホセ、エスカミーリョ、ミカエラはダブル・キャストを組むのだが、3公演で今回の東京公演に登場するドゥストラック、ポレンザーニ、キマチ、ザーメチニーコヴァーのチームがキャスティングされている(6月9日現在)。指揮者とはもちろん、歌手同士も晴れの舞台で共演を重ねたばかりの顔ぶれが東京にやってくることになる。息のあったアンサンブルとなることは疑いない。

さらに4月17日と18日にはソウルでのKBS交響楽団の定期演奏会でも『カルメン』の演奏会形式上演(歌手は東京公演とは異なる)を指揮したから、今年はほんとうに『カルメン』づくしの年なのである。上演を重ねた、練りに練った指揮が期待できる。



2025年に没後250年を迎えたジョルジュ・ビゼー  
(エディエンヌ・カルジャ撮影)



## 豪華な歌手たち

「オペラの殿堂、スカラ座と同じ顔ぶれ」となる歌唱陣への期待も、いやおうなく大きい。

カルメン役のドゥストラックはフランス人で、2021年の新国立劇場公演でこの役を歌って高い評価を得たから、ご記憶の方も多いただろう。表現力に優れた歌唱に加えて大柄で華のある舞台姿、演技力も高いだけに、再びこの役を日本で聴けることはとても嬉しい。

ホセ役のポレンザーニはアメリカのテノールで、母国のメトロポリタン歌劇場はもちろん、世界各地の一流歌劇場で30年近くも主役を張り続けている。日本でオペラを歌うのは久しぶりなだけに、叙情性をかねそなえた熱唱を期待したい。

エスカミーリョ役のキマチはウクライナ出身、プリン・ターフェルやエリーナ・ガランチャなど世界的スターを輩出したBBCカーディフ世界歌手コンクールで2019年に第1位を獲得、活躍の場を広げつつある新鋭だ。\*

ミカエラ役のザーメチニー・コヴァーはスロヴァキア出身のソプラノで、2020年からウィーン国立歌劇場に所属してさまざまな役を歌うほか、ベルリン国立歌劇場などにも出演してきた。スカラ座での『カルメン』はこの歌劇場へのデビューとなるものであり、今後もさらなる国際的活躍が期待される、まさに伸びざかりの歌手だ。

\*当初の発表から変更となりました。詳しくはp24をご参照ください。



## 上演に向けて、充実の日本人キャスト陣

そして『カルメン』では、アンサンブルを組む助演の歌手たちもとても大切である。かれらとの対話により、主役たちの心情や覚悟が明らかになるように作られているからだ。これらの役の歌唱経験も多い日本の歌手たちが固めているだけに安心できるし、それは合唱の新国立劇場合唱団なども同様だ。

オペラの本場で活躍中の豪華な主役陣と、作品をよく知る助演陣と合唱。さらに世田谷ジュニア合唱団と南風野香<sup>はえのかり</sup>スペイン舞踊団を交えて、チョン・ミョンフンの指揮のもとで東京フィルが奏でる、生彩に富んだ『カルメン』の音楽。とても楽しみだ。

なお今回の楽譜は2020年の公演と同じく、「アルコール版」を使用し、細部は指揮者の意向に従い決定されるという。スカラ座で舞台上演をこなしてきたばかりの主役たちだけに、喜怒哀楽の熱い人間ドラマを音楽に込めてくれることだろう。

山崎浩太郎(やまざきこうたろう)／1963年東京生まれ。演奏家の活動とその録音を生涯や社会状況とあわせてとらえ、歴史物語として説く「演奏史譚」を専門とする。『音楽の友』『モーストリー・クラシック』『ぶらあぼ』『レコード芸術ONLINE』などに寄稿し、日本経済新聞の演奏会評も担当。著書は『巨匠指揮者列伝』(音楽之友社)、『演奏史譚1954/55』(アルファベータ)他。

## News &amp; Information

## 東京フィル恒例、「ハートフル コンサート2026」開催

日時 2026年8月15日(土)14:00開演(13:00開場)

会場 東京芸術劇場コンサートホール

出演 お話:黒柳徹子  
ゲスト(歌):石丸幹二  
指揮:円光寺雅彦

曲目 モーツァルト／歌劇『フィガロの結婚』序曲(モーツァルト生誕270年)  
ウェーバー／歌劇『オベロン』序曲(ウェーバー生誕200年・没後240年)  
レスピーギ／交響詩『ローマの松』(日本イタリア外交関係樹立160周年)  
マイ・ウェイ(歌:石丸幹二) ほか

料金 S席¥6,200 A席¥5,100 B席¥4,100 C席¥3,600  
車椅子席¥3,100

チケット問合せ 東京フィルチケットサービス03-5353-9522(平日  
10:00~18:00/土日祝日休)※残席状況はお問合せください



黒柳徹子  
撮影:下村一喜



石丸幹二  
©HIRO KIMURA



円光寺雅彦  
©上野隆文

## メンバー出演情報 「祈りの響き～作曲家 立原勇 作品集～」

「ここで言う『祈り』とは私たちが日常の中でふと立ち止まり、何かを願い、想いを馳せるという、人間の最も純粋な行為としての『祈り』のテーマです。私の作品の核心である室内楽の響きをお届けします」(立原勇)

日時 2026年7月27日(月)18:30開演(18:00開場)

会場 川口総合文化センター リリア音楽ホール

出演 作曲:立原勇／ヴァイオリン:宮川正雪(東京フィル第2ヴァイオリン首席)・市川志乃生／ヴィオラ:杉浦文(東京フィルフォアシュペーラー)／チェロ:高麗正史(東京フィルフォアシュペーラー)／トランペット:古田俊博・小林好夫／バス・トロンボーン:山口隼士／ピアノ:小池ちとせ・城 綾乃

曲目 立原勇／祈りVI(バス・トロンボーンとピアノのための)  
祈りVII(ピアノ五重奏のための)  
祈りXII(2本のトランペットとピアノのための)  
祈りXXIX(バス・トロンボーンとピアノのための) ほか

料金 前売り¥3,000(発売中) 当日¥3,500

チケット申込 「祈りの響き」立原勇作品集 URL <https://music-concert.info/inori/>

主催 祈りの響き実行委員会



## 2026-27シーズン 今後の定期演奏会

東京フィルの2026-27シーズン、各公演1回券が好評発売中です。世界を舞台に活躍するマエストロたちとの音楽の喜びに満ちたドラマティックなコンサートが、皆様をお待ちしています。

7月	第1034回 7月23日(木) 19:00 サントリーホール	指揮: チョン・ミョンフン(名誉音楽監督) カルメン: ステファニー・ドゥストラック ドン・ホセ: マシュー・ポレンザーニ エスカミーリョ: アンドリー・キマチ(※) ミカエラ: スラーフカ・ザーメチニー・コヴァー スニガ: 木村善明 モラレス: 小林啓倫 ダンカイロ: 北川辰彦 レメンダート: 村上公太 フラスキータ: 砂田愛梨 メルセデス: 藤井麻美 合唱: 新国立劇場合唱団(合唱指揮: 富平恭平) 児童合唱: 世田谷ジュニア合唱団(児童合唱指揮: 掛江みどり) フラメンコ: 南風野香スペイン舞踊団(出演: 南風野香(振付)、井上圭子、谷 淑江、奥濱春彦) ※当初の発表から変更となりました。	第1035回 7月26日(日) 15:00 Bunkamuraオーチャードホール	第175回 7月29日(水) 19:00 東京オペラシティ コンサートホール
	ビゼー／歌劇『カルメン』〈オペラ演奏会形式〉 全3幕・日本語字幕付き原語(フランス語)上演 公演時間: 約3時間(休憩含む)			
8月	第176回 8月6日(木) 19:00 東京オペラシティ コンサートホール	指揮: 小林研一郎 ヴァイオリン: 若尾圭良*	第1036回 8月11日(火・祝) 15:00 Bunkamuraオーチャードホール	メンデルスゾーン／ヴァイオリン協奏曲* リムスキー＝コルサコフ／交響組曲『シエエラザード』
	1回券発売中			

### 『カルメン』出演者変更のお知らせ

7月定期演奏会 『ビゼー／歌劇『カルメン』』にエスカミーリョ役で出演を予定しておりましたニコラ・クルジャル氏は、本人の都合により出演できなくなりました。代わりましてアンドリー・キマチ氏が出演いたします。

アンドリー・キマチ ウクライナ出身のバリトン。2019年BBCカーディフ・シンガー・オブ・ザ・ワールド優勝。2025/26シーズンには英国ロイヤル・オペラ『ボリス・ゴドゥノフ』シチエルカーロフ、ハンブルク州立歌劇場『ファルスタッフ』フォード、ノルウェー国立オペラ&バレエ『エフゲニー・オネーギン』タイトルロール、オペラ・オーストラリア『椿姫』ジョルジョ・ジェルモン役など。この6月にミラノ・スカラ座でのチョン・ミョンフン指揮『カルメン』に同役で出演。



© Oleksandr Andrushchenko

10月	第1037回 10月15日(木) 19:00 サントリーホール	指揮: チョン・ミョンフン(名誉音楽監督) ヴァイオリン: マキシム・ヴェンゲーロフ*
	第177回 10月16日(金) 19:00 東京オペラシティ コンサートホール	
	第1038回 10月18日(日) 15:00 Bunkamuraオーチャードホール	
	シベリウス/ヴァイオリン協奏曲* ベートーヴェン/交響曲第7番 <b>1回券発売中</b>	
11月	第1039回 11月15日(日) 15:00 Bunkamuraオーチャードホール	指揮: ミハイル・プレトニョフ(特別客演指揮者)
	第178回 11月16日(月) 19:00 東京オペラシティ コンサートホール	
	プレトニョフ/14の音楽的記憶(2024) チャイコフスキー/交響曲第4番 <b>1回券発売中</b>	
2027年 1月	第1040回 1月21日(木) 19:00 サントリーホール	指揮: ファゴット*: ソフィー・デルヴォー ウィーン・フィルハーモニー管弦楽団およびウィーン国立歌劇場管弦楽団首席ファゴット奏者
	第179回 1月25日(月) 19:00 東京オペラシティ コンサートホール	
	モーツァルト/歌劇『魔笛』序曲 ウェーバー/ファゴット協奏曲*(ウェーバー没後200年) ブラームス/交響曲第1番 <b>1回券発売中</b>	
2月	第180回 2月18日(木) 19:00 東京オペラシティ コンサートホール	指揮: チョン・ミョンフン(名誉音楽監督) ピアノ: キム・セヒョン* オルガン: 石丸由佳**
	第1041回 2月24日(水) 19:00 サントリーホール	
	ベートーヴェン/ピアノ協奏曲第4番*(ベートーヴェン没後200年) サン=サーンス/交響曲第3番『オルガン付き』** <b>1回券発売中</b>	

※公演により予定枚数終了となっている場合がございます。詳しくは東京フィルウェブサイトまたはチケットサービスへお問合せください。

### ◆1回券料金(全席指定・税込)

SS席 ¥15,000 S席 ¥10,000(¥9,000) A席 ¥8,500(¥7,650)  
B席 ¥7,000(¥6,300) C席 ¥5,500(¥4,950) ( )=東京フィルフレンズ料金

お問合せ 東京フィルチケットサービス

詳細はこちら

Tel 03-5353-9522 (平日10時~18時・土日祝日休/  
発売日の土日祝は10時~16時)

URL [www.tpo.or.jp/](http://www.tpo.or.jp/) (24時間受付・座席選択可)



## 午後のコンサート。2026-27シーズンラインナップ

屋下がりにはリラックス気分でフル・オーケストラの演奏を堪能できる、東京フィルの大人気シリーズ「午後のコンサート」。迫力満点の生演奏の合間に出演者が皆様のご質問にお答えするコーナーもあり、楽しいひとときをお過ごしいただけます。今シーズンも皆様のお越しをお待ちしております。



イラスト:ハラダチエ

### 渋谷の午後のコンサート 会場:Bunkamuraオーチャードホール 開演14:00

7月5日(日)第30回

#### 旅する北欧

指揮とお話:横山 奏  
ヴァイオリン:吉本梨乃  
ゲスト・語り:石丸謙二郎

1回券発売中



©平館平 ©藤田啓二

9月13日(日)第31回

#### チェロ弾きの休日

指揮とお話:  
円光寺雅彦  
チェロ:山崎伸子

1回券発売中



©K.Miura

12月6日(日)第32回

#### ジャズに魅せられて

指揮とお話:挟間美帆  
トランペット:黒田卓也

※12月7日(月)平日の午後のコンサートと同演目です。

1回券8月発売



©Dave Stapleton

### 平日の午後のコンサート 会場:東京オペラシティ コンサートホール 開演14:00

託児あり

8月12日(水)第41回

#### コバケンのベートーヴェン!

指揮とお話:  
小林研一郎  
ピアノ:金子三勇士  
ナビゲーター:朝岡 聡

予定枚数終了



©K.Miura ©Seichi Sato

10月5日(月)第42回

#### 絢爛たる一族

指揮とお話:角田鋼亮  
ヴァイオリン:服部百音

※10月4日(日)休日の午後のコンサートと同演目です。

1回券発売中



©Makoto Kamiya ©YUJI HORI

12月7日(月)第43回

#### ジャズに魅せられて

指揮とお話:挟間美帆  
トランペット:黒田卓也

※12月6日(日)渋谷の午後のコンサートと同演目です。

1回券8月発売



©Dave Stapleton

2027年2月10日(水)

第44回

#### 不死鳥が舞う

指揮とお話:出口大地  
ピアノ:花房晴美

1回券8月発売



©hiro.pberg berlin ©武藤幸

休日の午後のコンサート 会場:東京オペラシティ コンサートホール 開演14:00

託児あり

9月20日(日)第108回

秋の大感謝祭  
～イタリヤ編～

指揮とお話:三ツ橋敬子  
ゲスト:パンツェッタ・ジローラモ

1回券予定枚数終了



©Earl Ross

出演決定!

10月4日(日)第109回

絢爛たる一族

指揮とお話:角田鋼亮  
ヴァイオリン:服部百音

※10月5日(月)平日の午後のコンサートと同演目です。

1回券発売中



©Makoto Kamiya

©YUJI HORI

11月29日(日)

第110回

なんでもOKストラ!!

指揮とお話:  
円光寺雅彦  
ピアノ:清塚信也

1回券8月発売



©上野隆文

2027年3月7日(日)

第111回

春、はばたく。

指揮:  
ケンショウ・ワタナベ  
チェロ:鳥羽咲音

1回券8月発売



©Abigel Kralik

©Julia Wesely

午後のコンサート チケット価格

◆4回セット券(各シリーズ共通) ※「平日/渋谷」シリーズの4回セット券は販売を終了しております

4回セット券料金	S席	A席	B席	C席
定価	¥20,520	¥16,560	¥11,160	¥8,400
東京フィルフレンズ会員	¥18,468	¥14,904	¥10,044	¥7,560

◆渋谷/平日/休日 各シリーズ共通 1回券料金

4回セット券料金	S席	A席	B席	C席
定価	¥5,700	¥4,600	¥3,100	¥2,100
東京フィルフレンズ会員/WEB優先発売期間	¥5,130	¥4,140	¥2,790	¥1,890

※1回券は4回セット券販売後に残席がある場合のみ販売いたします。完売となりました際はご了承ください。

※やむを得ない事情により、出演者・曲目などが変更になる場合がございます。

※公演中止の場合を除き、お求めいただいたチケットの払戻・変更等はいたしかねます。

※未就学児のご入場はお断りしております。東京オペラシティでの公演では

託児サービス(要予約・有料)をご利用いただけます。ご予約はマザーズの公式LINEよりお申し込みください。

Mother's



マザーズ  
公式LINE

お問合せ・お申込み 東京フィルチケットサービス

03-5353-9522 (平日10時～18時/土日祝休 発売日の土日祝のみ10時～16時で営業)

東京フィルWEBチケットサービス <https://www.tpo.or.jp/>



## Photo Reports 2026年4月～5月のコンサートより

4月は「渋谷の午後のコンサート」シーズン開幕公演にマエストロ小林研一郎が登場。〈コバケンの思い出〉として郷愁あふれる演目をお届けしました。5月、ゴールデンウィークには各地の音楽祭で活躍に続き、首席指揮者アンドレア・バッティストーニとの定期演奏会。2公演でマエストロのオーケストラ編曲によるシューマン「子供の情景」そしてマーラー「交響曲第4番」と、指揮者・作曲家の両輪で存在感を増すマエストロ・バッティストーニならではの演目でお楽しみいただきました。

### 第29回 渋谷の午後のコンサート 〈コバケンの思い出〉(4/19) 撮影=友澤綾乃

指揮とお話：小林研一郎  
ナビゲーター：永井美奈子  
コンサートマスター：依田真宣

ブラームス／ハンガリー舞曲集より 第1番、  
第6番、第5番(当初発表から曲順が変更となりました)  
ドヴォルザーク／交響曲第9番『新世界より』  
【アンコール】 アイルランド民謡／  
ダニー・ボーイ



マエストロ・コバケンの情熱が伝わる熱演に



マエストロみずからピアノを弾き、歌声も披露



フリーアナウンサー永井美奈子さんの司会進行でお届けしました

### 軽井沢大賀ホール2026春の音楽祭 (5/2)

指揮：大友直人 チェロ：水野優也  
コンサートマスター：三浦章宏

モーツァルト／歌劇『フィガロの結婚』序曲  
ドヴォルザーク／チェロ協奏曲  
【ソリスト・アンコール】 J. S. バッハ：  
無伴奏チェロ組曲第1番より「サラバンド」  
ベートーヴェン／交響曲第6番『田園』



## 5月定期演奏会 (5/13,17)

撮影=上野隆文

指揮: アンドレア・バッティストーニ

ソプラノ: 高橋 維\*

コンサートマスター: 近藤 薫

シューマン(バッティストーニ編) / 『子供の情景』  
(世界初演)

マーラー / 交響曲第4番\*



マーラー「交響曲第4番」ではソプラノ高橋維を迎えて



シューマン / バッティストーニ編『子供の情景』世界初演、マーラー「交響曲第4番」に向けたリハーサルより



「シューマンとマーラーは幼い子供の心を生涯持ち続けた作曲家」とバッティストーニ。音楽に乗せて無垢な魂を描きました。マーラーでは作曲家の指示により2挺のヴァイオリンを携えたコンマス近藤薫のソロにも注目が集まりました

ラ・フォル・ジュルネ TOKYO 2026(東京・有楽町)

【314】 大洋の交響詩と、名ピアニストが奏でる大河のごときコンチェルト

5月5日(火・祝)

東京国際フォーラム ホールA:ロワール

指揮:リオ・クオクマン ピアノ:小林愛実\*

コンサートマスター:坪井夏美

シベリウス/交響詩『大洋の女神(波の精)』op.73  
グリーグ/ピアノ協奏曲 イ短調 op.16\*



Photo by Taichi Nishimaki,  
IG: @nishimaki\_tkmi

【315】 ファイナル・コンサート

5月5日(火・祝)

東京国際フォーラム ホールA:ロワール

指揮:リオ・クオクマン ピアノ:壺阪健登\*

コンサートマスター:坪井夏美

ドビュッシー/『海』に基づく即興\*

ドビュッシー/交響詩『海』から第3楽章

ドビュッシー/『ベルガマスク組曲』から

「月の光」に基づく即興\*

ラヴェル/『水の戯れ』に基づく即興\*

スメタナ/交響詩『わが祖国』から

「ウルタヴァ(モルダウ)」



Photo by Shun Itaba, IG: @shun\_officially  
/ X: @Shun\_officially

新譜情報

アンドレア・バッティストーニ指揮『アルプス交響曲』6月24日発売!

昨年、大変好評を博した、首席指揮者アンドレア・バッティストーニと東京フィルによるR.シュトラウス『アルプス交響曲』のライヴがリリースされます。(日本コロムビア)



アルプス交響曲(UHQCD)※高音質CD「UHQCD」

アンドレア・バッティストーニ(指揮)

東京フィルハーモニー交響楽団

録音:2025年9月14日 Bunkamuraオーチャードホール

[COCQ-85655] ¥3,500 (税抜価格 ¥3,182)

## ガルガンチュア音楽祭(石川県金沢市)

写真提供=ガルガンチュア音楽祭実行委員会事務局

【H31】5月3日(日)11:20

石川県立音楽堂邦楽ホール

指揮：大友直人

コンサートマスター：三浦章宏

ベートーヴェン／交響曲第6番『田園』



【C41】5月4日(月)11:20

石川県立音楽堂 コンサートホール

指揮：ミヒヤエル・バルケ

コンサートマスター：三浦章宏

チャイコフスキー／交響曲第4番



【C42】5月4日(月)14:00

石川県立音楽堂 コンサートホール

指揮：コルネリオス・ミハイリディス

オルガン：石丸由佳

コンサートマスター：三浦章宏

サン＝サーンス／

交響曲第3番「オルガン付き」



## 長野市芸術館「カルミナ・ブラーナ 2026 スペシャル」(5/8)

指揮：園田隆一郎／加藤昌則(\*自作のみ指揮)

ソプラノ：森 麻季 テノール：彌勒忠史

バリトン：加来 徹

合唱団：カルミナ・ブラーナ2026合唱団、

長野市芸術館ジュニア合唱団(合唱指導：山崎 浩)

ピアノ：瀧澤典江／宮下静香

コンサートマスター：依田真宣



©一般財団法人長野市文化芸術振興財団

加藤昌則 作曲・たかはしけいすけ 詞／

「春」～長野市芸術館開館5周年記念委嘱作品(2021)\*

「夏」～長野市芸術館開館10周年記念委嘱作品(世界初演)\*

カール・オルフ／世俗カンタータ『カルミナ・ブラーナ』

向夏の候、皆様におかれましてはますますご清祥のこととお慶び申し上げます。  
 6月定期演奏会は世界的巨匠ピンカス・ズーカーマンが東京フィル定期に2回目の登場。  
 楽団員との深い信頼関係のもと、モーツァルトの傑作を奏でます。  
 レジェンドの呼び声高いマエストロと東京フィルの、  
 芸術の真髄に迫る演奏をどうぞお楽しみください。  
 引き続き、当楽団を何卒よろしくお願ひ申し上げます。



東京フィルハーモニー交響楽団 理事長 三木谷 浩史

## 賛助会

東京フィルハーモニー交響楽団の活動は、皆様のご寄附により支えていただいております。  
 ここに法人ならびに個人賛助会員(パートナー会員)の皆様のご芳名を掲げ、  
 改めて御礼申し上げます。

### オフィシャル・サプライヤー (敬称略)

ソニーグループ株式会社	代表執行役 社長 CEO	十時 裕樹
楽天モバイル株式会社	代表取締役会長	三木谷 浩史
株式会社マルハン	代表取締役 会長	韓 昌祐
株式会社ロッテ	代表取締役社長執行役員	中島 英樹
株式会社ゆうちょ銀行	取締役兼代表執行役社長	笠間 貴之

### 法人会員

#### 賛助会員 (五十音順・敬称略)

(株)III 代表取締役社長 井手 博	(株)インターテキスト 代表取締役 海野 裕	(公財)オリックス宮内財団 代表理事 宮内 義彦
(株)アイエムエス 取締役会長 前野 武史	ANAホールディングス(株) 代表取締役社長 芝田 浩二	カシオ計算機(株) 代表取締役 社長 CEO 高野 晋
(医)相澤内科医院 理事長 相澤 研一	(株)NHKエンタープライズ 代表取締役社長 有吉 伸人	キヤノン(株) 代表取締役会長兼社長 CEO 御手洗 富士夫
アイ・システム(株) 代表取締役会長 松崎 務	大塚化学(株) 特別相談役 大塚 雄二郎	(株)グリーンハウス 代表取締役社長 田沼 千秋
(株)アシックス 代表取締役社長COO 富永 満之	(株)オーディオテクニカ 代表取締役社長 松下 和雄	サントリーホールディングス(株) 代表取締役社長 鳥井 信宏

信金中央金庫  
理事長 柴田 弘之

(株)JERA  
代表取締役社長CEO兼COO 奥田 久栄

(株)J.Y.PLANNING  
代表取締役 遅澤 准

(株)滋慶  
代表取締役社長 田仲 豊徳

(株)ジーヴァエナジー  
代表取締役社長 金田 直己

菅波楽器(株)  
代表取締役社長 菅波 康郎

相互物産(株)  
代表取締役社長 小澤 真也

ソニーグループ(株)  
代表執行役 社長 CEO 十時 裕樹

ソニー生命保険(株)  
代表取締役社長 坪田 博行

(株)ソニーミュージックエンタテインメント  
代表取締役社長 グループCEO 岩上 敦宏

(株)大丸松坂屋百貨店  
代表取締役社長 宗森 耕二

都築学園グループ  
総長 都築 仁子

東急(株)  
取締役社長 堀江 正博

東京オペラシティビル(株)  
代表取締役社長 長島 誠

東京銀座ウェルネス&エイジングクリニック  
院長 檜山 和寛

東レ(株)  
代表取締役社長 大矢 光雄

TOPPANエッジ(株)  
代表取締役社長 齊藤 昌典

DOWAホールディングス(株)  
代表取締役 社長執行役員 CEO 関口 明

(株)ニチケアパレス  
代表取締役社長 櫻井 紀之

(株)ニフコ  
代表取締役社長 柴尾 雅春

日本ライフライン(株)  
代表取締役社長 鈴木 啓介

(株)パラダイスインターナショナル  
代表取締役 新井 秀之

富士電機(株)  
代表取締役会長 CEO 北澤 通宏

(株)不二家  
代表取締役社長 河村 宣行

(株)三井住友銀行  
頭取CEO 福留 朗裕

三菱地所(株)  
執行役社長 中島 篤

三菱倉庫(株)  
代表取締役社長 齊藤 秀親

(株)三菱UFJ銀行  
特別顧問 小山田 隆

ミライラボバイオサイエンス(株)  
代表取締役 清水 宣明

(株)明治  
代表取締役社長 八尾 文二郎

森ビル(株)  
代表取締役社長 辻 慎吾

ヤマトホールディングス(株)  
代表取締役会長 長尾 裕

(株)山野楽器  
代表取締役社長 山野 政彦

ユニアデックス(株)  
代表取締役社長 田中 建

ユニオンツール(株)  
代表取締役会長 片山 貴雄

(医)ユベンシア  
理事長 今西 宏明

楽天モバイル(株)  
代表取締役会長 三木谷 浩史

(株)リソー教育グループ  
代表取締役社長 天坊 真彦

後援会員

(株)アグレックス  
代表取締役社長 柳井 城作

旭化成ホームズ(株)  
代表取締役社長 大和久 裕二

(医)エレル たにぐちファミリークリニック  
理事長 谷口 聡

欧文印刷(株)  
代表取締役社長 和田 美佐雄

(有)オルテンシア  
代表取締役 雨宮 睦美

(医)カリタス菊山医院  
理事長 加藤 徹

(医)康明会  
理事長 遠藤 正樹

(株)鈴元  
代表取締役 鈴木 信史

(医)だて内科クリニック  
理事長 伊達 太郎

(宗)東京大仏・乗蓮寺  
代表役員 若林 隆壽

(一財)凸版印刷三幸会  
代表理事 金子 真吾

(株)日税ホールディングス  
代表取締役会長 吉田 雅俊

(株)ネスト  
代表取締役 太田 潤

富士通(株)  
代表取締役社長 CEO 時田 隆仁

本田技研工業(株)  
取締役 代表執行役社長 三部 敏宏

三菱電機(株)  
執行役社長 漆間 啓

(同)未来圏  
CEO宇宙飛行士 野口 聡一

## ご支援の御礼とお願い

昨今の社会情勢において、皆様からたくさんの励ましのお言葉とともに、東京フィルに温かいご支援をいただいておりますこと、心より御礼申し上げます。

東京フィルハーモニー交響楽団は、1911年(明治44年)に創設され、この西洋発祥の音楽文化を日本の近代化の中でいち早く受容し、様々な試行錯誤を繰り返しつつ、音楽を社会に届けるという使命を貫いて参りました。

東京フィルは世界でも数少ない自主運営の楽団です。

今後さらに安定的・発展的な財政基盤を構築し、いつそうの発展をはかるために、皆様のご寄附が力となります。

皆様におかれましては、あらためて当団を取り巻く状況についてご理解を賜りますとともに、一層のご支援・ご助力を賜りますよう、心よりお願い申し上げます。東京フィルが取り組む、実り豊かな未来を創る活動へのご支援をお願い申し上げます。

弊団へのご寄附をいただけます際には、こちらの口座のいずれかにお振込みいただきましたら幸いです。個人として1万円以上、法人として30万円以上のご寄附をご検討いただける際は、賛助会(次ページ)も併せてご覧ください。

金融機関名	ゆうちょ銀行(郵便振替)	三井住友銀行・東京公務部(096)
口座番号	00120-2-30370	普通預金 3003239
口座名義	公益財団法人 東京フィルハーモニー交響楽団	

※寄附金額は自由に設定いただけます。

※振込手数料、通信費は恐れ入りますがご負担くださいますようお願い申し上げます。

※領収証書が必要な方は、別途配布しております「寄附申込書」に必要事項を記入し、下記送付先へご送付ください。

寄附申込書の書式は下記ウェブサイトまたは問合せ先へご照会ください。



寄附申込書・賛助会入会申込書はこちらからも取得いただけます。  
<https://www.tpo.or.jp/support>

### ご支援・賛助会に関するお問合せ／寄附申込書 送付先

公益財団法人 東京フィルハーモニー交響楽団・広報渉外部 寄附担当  
〒163-1408 東京都新宿区西新宿3-20-2 東京オペラシティタワー8階  
Fax: 03-5353-9523 Eメール: partner@tpo.or.jp  
Tel: 03-5353-9521(土日祝日を除く10時~18時)

## 東京フィルの賛助会(応援団)に入りませんか？

2026年に東京フィルハーモニー交響楽団は創立115年を迎えました。

これまでの歩みは、東京フィルとその音楽を愛する皆様の日頃からの大きなご支援とご助力なしには実現しえないものでした。心より御礼申し上げます。

東京フィルは新しいシーズンも、年間を通じて皆様の暮らしに音楽をお届けしてまいります。国際的に活躍する音楽家や将来を嘱望される若い演奏家を招いての定期演奏会や「午後のコンサート」シリーズ、「第九」「ニューイヤーコンサート」などの特別演奏会や提携都市公演、学校や公共施設での音楽活動を通じ、今後も社会に広くオーケストラの価値を認知いただけるよう活動を続けてまいります。この活動を通じて、日本の芸術文化の発展に寄与し、今後ますます多様化・複雑化するグローバル社会において不可欠な心の豊かさ・寛容さを育み、次世代へと続く文化交流の懸け橋となるよう、より一層努めてまいります。

ぜひとも皆様方からの継続的なご支援を賜りますよう、謹んでお願い申し上げます。

東京フィルハーモニー交響楽団



さまざまな形で青少年に演奏を届ける活動を続けています

### 賛助会(法人／パートナー(個人))会員の種別

法人会員	年会費1口
賛助会員	50万円
後援会員	30万円
パートナー会員	
ワンハンドレッドクラブ	100万円
フィルハーモニー	50万円
シンフォニー	30万円
コンチェルト	10万円
ラプソディ	5万円
インテルメッツォ	3万円
プレリユード	1万円

※オフィシャル・サプライヤーの詳細はお問い合わせください。東京フィルハーモニー交響楽団は内閣府により「公益財団法人」に認定されており、ご寄附の金額に応じて税法上の優遇措置を受けることができます。その他特典、お申込みや資料請求など、詳しくは東京フィル広報渉外部担当へお問合せください。

寄附をご検討くださいます際には、主催公演会場「ご支援カウンター」またはウェブサイト、東京フィル担当(partner@tpo.or.jp)までお尋ねください。ご入会後は、1年ごとに継続のご案内をお送りいたします。

### 【賛助会に関するお問合せ・お申込み】

東京フィルハーモニー交響楽団 広報渉外部 (担当: 星野<sup>かのまた</sup> 鹿丈)

Tel: 03-5353-9521 (平日10時~18時) Eメール: partner@tpo.or.jp

## 活動のご報告

皆様のご寄附は東京フィルの様々な活動を支えています。



### フランチャイズ・ホール、事業提携ならびに連携協定について

東京フィルは、フランチャイズ・ホールであるBunkamuraオーチャードホール等での定期演奏会の他、東京都文京区、千葉県千葉市、長野県軽井沢町、新潟県長岡市の各地域と事業提携、愛知県刈谷市と連携協定を結び、定期演奏会、親子のためのコンサートや中高生などへの楽器ワークショップ等、地域の皆様との交流を通じ音楽の魅力をお届けしています。



### 文化庁「舞台芸術等総合支援事業(学校巡回公演)」

文化庁が主催する本事業として、日本全国の小中学校や特別支援学校を訪問し、一流の文化芸術団体による巡回公演を行っています。東京フィルは国内オーケストラでは唯一、文化庁から8年間の長期採択を受け(2014～2021年度)、東日本大震災地域を含む北海道・東北地区の小中学校115校、のべ46,279名の児童・生徒、地域の皆様と交流を行い、2019年度からはこれに加え関東・東海・中国地区の小中学校61校のべ20,389名の児童・生徒に音楽をお届けしました。2022年度は九州・沖縄地区の担当としてC区分(小編成オーケストラ)採択を受け25校の小中学校を巡回したほか、中国地区の担当として新たに長期採択(2022～2024年度)を受け3年間で29校の小中学校を訪問。2025年度は東北・関東地区の担当として15校の小中学校を訪問しました。

2026年度は関東・東海地区の担当として14校の小中学校を訪問し、ワークショップとオーケストラ公演を開催する予定です。



小学校体育館でのオーケストラ本公演



### 留学生の演奏会ご招待・・・留学生招待シート

東京フィルでは国際交流事業の一環として、海外からの留学生や研修員の方々を定期演奏会へご招待する「留学生招待シート」を設けており、皆様からご寄附いただいたチケットも有効に活用させていただきまします。詳しくは東京フィルチケットサービス(03-5353-9522)までお問合せください。



定期演奏会に來場のJICA東京研修生の皆様とチョン・ミョンフン(2019年7月東京オペラシティ定期)

©上野隆文



## “とどけ心に”特別招待シート

東京フィルでは2011年の東日本大震災をきっかけに、自然災害などやむを得ない事情により国や地域を問わず故郷から避難されているかたがたを当団の主催公演にご招待する取り組みを行っています。招待をご希望の方は、東京フィルチケットサービス(03-5353-9522)まで、支援団体として東京フィルの演奏会を活用したいという場合は、東京フィル事務局(03-5353-9521)広報渉外部担当までご相談ください。

### ご来場いただけなくなった定期演奏会チケットのご寄附について

東京フィルでは、ご購入いただきながらご来場いただけなくなった定期演奏会のチケットをご寄附いただき「留学生招待シート」「とどけ心に”特別招待シート”」として活用させていただいております。お手元にご来場いただけない公演チケットがございましたら、ぜひ東京フィルへご寄附ください。大切に使用させていただきます。



お問合せ・お申込み  
東京フィルチケットサービス  
電話:03-5353-9522  
(10時～18時/土日祝休)

5月の演奏会のチケットのご寄附をいただきました。心より御礼申し上げます。

魚澤章人、吉峯裕毅(他匿名希望3名) (五十音順・敬称略)



## 特別公演、公演協賛、広告のご案内

東京フィルハーモニー交響楽団は、様々な音楽活動を通して、企業様の大切な節目である周年記念事業や式典、福利厚生イベント等でご活用いただけるオンリーワンの特別企画を展開しております。

- 周年事業や記念イベントとして大切なお客様を招待したコンサートを開きたい
- 商品や新事業のプロモーションとして何か施策を考えたい
- 式典や学会などでの演奏を企画したい
- 東京フィルの公演プログラムに広告を掲載したい
- 新製品、サンプルを会場で販売・配布したい

どうぞお気軽にご用命ください。



日中国交正常化45周年記念上海公演後のレセプションにて

【広告・協賛のお問合せ】 東京フィルハーモニー交響楽団 広報渉外部

Tel: 03-5353-9521 (平日10時～18時) Eメール: partner@tpo.or.jp

# 東京フィルハーモニー交響楽団 1911年創立 楽団員

Tokyo Philharmonic Since 1911 / Musicians

名誉音楽監督  
Honorary Music Director

チョン・ミョンフン  
Myung-Whun Chung

首席指揮者  
Chief Conductor

アンドレア・バッティストーニ  
Andrea Battistoni

桂冠指揮者  
Conductor Laureate

尾高 忠明  
Tadaaki Otaka

大野 和士  
Kazushi Ono

ダン・エッティンガー  
Dan Ettinger

特別客演指揮者  
Special Guest Conductor

ミハイル・プレトニョフ  
Mikhail Pletnev

アシソエイト・コンダクター  
Associate Conductor

チョン・ミン  
Min Chung

永久名誉指揮者  
Permanent Honorary Conductor

山田 一雄  
Kazuo Yamada

永久楽友・名誉指揮者  
Permanent Member and  
Honorary Conductor

大賀 典雄  
Norio Ohga

コンサートマスター  
Concertmasters

近藤 薫  
Kaoru Kondo

三浦 章宏  
Akihiro Miura

依田 真宣  
Masanobu Yoda

アシスタント  
コンサートマスター  
Assistant concertmaster

坪井 夏美  
Natsumi Tsuboi

第1ヴァイオリン  
First Violins

小池 彩織☆  
Saori Koike

榊原 菜若☆  
Namo Sakakibara

平塚 佳子☆  
Yoshiko Hiratsuka

浅見 善之  
Yoshiyuki Asami

浦田 絵里  
Eri Urata

景澤 恵子  
Keiko Kagesawa

加藤 光  
Hikaru Kato

坂口 正明  
Masaaki Sakaguchi

鈴木 左久  
Saku Suzuki

高田 あきの  
Akino Takada

田中 秀子  
Hideko Tanaka

栃本 三津子  
Mitsuko Tochimoto

中澤 美紀  
Miki Nakazawa

中丸 洋子  
Hiroko Nakamaru

廣澤 育美  
Ikumi Hirotsawa

弘田 聡子  
Satoko Hirota

藤瀬 実沙子  
Misako Fujise

第2ヴァイオリン  
Second Violins

藤村 政芳◎  
Masayoshi Fujimura

宮川 正雪◎  
Masayuki Miyakawa

高瀬 真由子☆  
Mayuko Takase

石原 千草  
Chigusa Ishihara

出原 麻智子  
Machiko Idehara

太田 慶  
Kei Ota

葛西 理恵  
Rie Kasai

佐藤 実江子  
Mieko Sato

本堂 祐香  
Yuuka Hondo

山代 裕子  
Yuko Yamashiro

吉田 智子  
Tomoko Yoshida

吉永 安希子  
Akiko Yoshinaga

若井 須和子  
Suwako Wakai

渡邊 みな子  
Minako Watanabe

ヴァイオラ  
Violas

小峰 航一◎  
Koichi Komine

須田 祥子◎  
Sachiko Suda

加藤 大輔◎  
Daisuke Kato

今川 結☆  
Yui Imagawa

杉浦 文☆  
Aya Sugiura

伊藤 千絵  
Chie Ito

岡保 文子  
Ayako Okayasu

曾和 万里子  
Mariko Sowa

高橋 映子  
Eiko Takahashi

中嶋 圭輔  
Keisuke Nakajima

蛭海 たづ子  
Tazuko Hirumi

古野 敦子  
Atsuko Furuno

村上 直子  
Naoko Murakami

森田 正治  
Masaharu Morita

チェロ Cellos	コントラバス Contrabasses	オーボエ Oboes	ホルン Horns	トロンボーン Trombones	ハープ Harps
金木 博幸◎ Hiroyuki Kanaki	片岡 夢児◎ Yumeji Kataoka	荒川 文吉◎ Bunkichi Arakawa	齋藤 雄介◎ Yusuke Saito	辻 姫子◎ Himeko Tsuji	梶 彩乃 Ayano Kai
服部 誠◎ Makoto Hattori	黒木 岩寿◎ Iwahisa Kuroki	佐竹 正史◎ Masashi Satake	高橋 臣宜◎ Takanori Takahashi	中西 和泉◎ Izumi Nakanishi	田島 緑 Midori Tajima
渡邊 辰紀◎ Tatsuki Watanabe	小笠原 茅乃 Kayano Ogasawara	芳野 円香◎ Madoka Yoshino	大東 周 Shu Ohigashi	石川 浩 Hiroshi Ishikawa	ライブラリアン Librarian
黒川 実咲☆ Misaki Kurokawa	岡本 義輝 Yoshiteru Okamoto	岡村 彩香 Ayaka Okamura	小椋 陽咲 Hisaki Ogura	五箇 正明 Masaaki Goka	塚本 由香 Yuka Tsukamoto
高麗 正史☆ Masashi Korai	小栗 亮太 Ryota Oguri	杉本 真木 Maki Sugimoto	木村 俊介 Shunsuke Kimura	藤田 恵輔 Keisuke Fujita	柳瀬 茉耶 Maya Yanase
石川 剛 Go Ishikawa	熊谷 麻弥 Maya Kumagai	若林 沙弥香 Sayaka Wakabayashi	佐藤 俊輝 Toshiki Sato	山内 正博 Masahiro Yamauchi	
大内 麻央 Mao Ouchi	菅原 政彦 Masahiko Sugawara		田場 英子 Eiko Taba		ステージマネージャー Stage Managers
太田 徹 Tetsu Ota	田邊 朋美 Tomomi Tanabe	クラリネット Clarinets	塚田 聡 Satoshi Tsukada	テューバ Tubas	
菊池 武英 Takehide Kikuchi	中村 元優 Motomasa Nakamura	アレッサンドロ・ ベヴェラリ◎ Alessandro Beverari	豊田 万紀 Maki Toyoda	大塚 哲也 Tetsuya Otsuka	稲岡 宏司 Hiroshi Inaoka
佐々木 良伸 Yoshinobu Sasaki		リー・リーリン◎ Li-Ling Lee	西川 優弥 Yuya Nishikawa	荻野 晋 Shin Ogino	大田 淳志 Atsushi Ota
長谷川 陽子 Yoko Hasegawa	フルート Flutes	黒尾 文恵 Fumie Kuroo	山内 研自 Kenji Yamanouchi		古谷 寛 Hiroshi Furuya
渡邊 文月 Fuzuki Watanabe	神田 勇哉◎ Yuya Kanda	鳥潟 さくら Sakura Torigata	トランペット Trumpets	ティンパニ& パーカッション Timpani & Percussion	
	斉藤 和志◎ Kazushi Saito	林 直樹 Naoki Hayashi	川田 修一◎ Shuichi Kawata	岡部 亮登◎ Ryoto Okabe	
	さかはし 矢波 Yanami Sakahashi		野田 亮◎ Ryo Noda	塩田 拓郎◎ Takuro Shiota	
	和田 桃子 Momoko Wada	ファゴット Bassoons	杉山 眞彦 Masahiko Sugiyama	秋田 孝訓 Takanori Akita	
		河野 星◎ Akari Kono	箕輪 綾子 Ayako Minowa	木村 達志 Tatsushi Kimura	
		チェ・ヨンジン◎ Young-Jin Choe		鷹羽 香緒里 Kaori Takaba	
		廣幡 敦子◎ Atsuko Hirohata		中村 勇輝 Yuki Nakamura	
		井村 裕美 Hiromi Imura		縄田 喜久子 Kikuko Nawata	
		桔川 由美 Yumi Kikkawa		船迫 優子 Yuko Funasako	
		森 純一 Junichi Mori		古谷 はるみ Harumi Furuya	

◎首席奏者  
Principal○副首席奏者  
Assistant Principal☆フオアシュピラー  
Vorspieler

## 東京フィルハーモニー交響楽団

1911年創立。日本で最も長い歴史をもつオーケストラ。メンバー約160名、シンフォニーオーケストラと劇場オーケストラの両機能を併せもつ。名誉音楽監督にチョン・ミョンフン、首席指揮者アンドレア・バッティストーニ、特別客演指揮者にミハイル・プレトニョフを擁する。Bunkamuraオーチャードホールなどでの定期演奏会や「午後のコンサート」等の自主公演、新国立劇場等でのオペラ・バレエ演奏、テレビ・ラジオ、インターネット等での放送・配信演奏により、全国の音楽ファンに親しまれる存在として高水準の演奏活動と様々な教育的活動を展開している。海外公演も積極的に行い、これまでに4回のヨーロッパ・ツアー、創立100周年記念ワールド・ツアー、アジアでは2005年に日中韓3か国、2015年・2025年に東京とソウルの2都市で日韓国交正常化50周年・60周年記念コンサートなど多数開催。近年ではヨーロッパや中東からの招聘を受けるなど、国内外から高い評価と注目を集めている。2025年秋には名誉音楽監督チョン・ミョンフンとのヨーロッパ・ツアーを実施、各地で絶賛を博した。2020～21年のコロナ禍における取り組みはMBS『情熱大陸』、NHK BS1『BS1スペシャル 必ずよみがえる～魂のオーケストラ 1年半の闘い～』などのドキュメンタリー番組で取り上げられた。

1989年よりBunkamuraオーチャードホールとフランチャイズ契約を結んでいる。東京都文京区、千葉県千葉市、長野県軽井沢町、新潟県長岡市と事業提携を、愛知県刈谷市と連携協定を結び、各地域との教育的、創造的な文化交流を行っている。





### Tokyo Philharmonic

In 2026, the Tokyo Philharmonic celebrates its 115th anniversary as Japan's first symphony orchestra. With about 160 musicians, Tokyo Phil regularly performs both symphonies and operas. Tokyo Phil is proud to have appointed Maestro Myung-Whun Chung, who has been conducting the orchestra since 2001, as Honorary Music Director, Maestro Andrea Battistoni as Chief Conductor, and Maestro Mikhail Pletnev as Special Guest Conductor.

Tokyo Phil has established its world-class reputation through its subscription concert series, regular opera and ballet assignments at the New National Theatre, and a full, ever in-demand musical agenda around Japan and the world, including broadcasting with NHK Broadcasting Corporation, various educational programs, and tours abroad. In the autumn of 2025, the orchestra embarked on a major European tour with its Honorary Music Director, Myung-Whun Chung. The tour was met with outstanding acclaim from audiences and critics alike across the continent, further cementing the orchestra's international reputation.

While Tokyo Phil is a frequent recipient of the ACA National Arts Festival Award in Japan, its recordings have been highly acclaimed internationally, winning the "OPUS KLASSIK 2021" award in the symphonic category (20th-21st century).

Tokyo Phil has partnerships with Bunkamura Orchard Hall, the Bunkyo Ward in Tokyo, Chiba City, Karuizawa Cho in Nagano, and Nagaoka City in Niigata, and also cooperation agreement with Kariya City in Aichi.

Official Website / SNS <https://www.tpo.or.jp/>    



東京フィルWEB

## 役員等・事務局・団友

## 役員等(理事・監事および評議員)

理事長	理事	監事	評議員
三木谷 浩史	浮舟 邦彦	岩崎 守康	伊東 信一郎
	大賀 昭雄	山野 政彦	佐治 信忠
副理事長	大塚 雄二郎		鈴木 啓介
黒柳 徹子	小山田 隆		瀬谷 博道
	田沼 千秋		
専務理事	玉木 林太郎		
石丸 恭一	寺田 琢		
	遠山 敦子		
常務理事	野本 弘文		
工藤 真実	韓 昌祐		
	宮内 義彦		

## 事務局

楽団長	公演事業部	ステージマネージャー	ライブラリアン	広報渉外部	総務 経理
石丸 恭一	市川 悠一	稲岡 宏司	塚本 由香	伊藤 唯	川原 明夫
	岩崎 井織	大田 淳志	柳瀬 茉耶	沖汐 明日香	鈴木 美絵
事務局長	大久保 里香	古谷 寛		鹿又 紀乃	
工藤 真実	大谷 絵梨奈			千木 加寿子	
	佐藤 若菜			星野 友子	
	村尾 真希子			松井 ひさえ	
				安田 ひとみ	

## 団友

安藤 栄作	岡部 純	今野 芳雄	高野 和彦	新田 伸雄	松田 朋子
池田 敏美	小樽 敦子	齊藤 匠	高平 純	二宮 純	水鳥 路
磯部 保彦	小山 智子	坂口 和子	高村 千代子	二宮 祐子	湊 貞男
糸井 正博	甲斐沢 俊昭	嵯峨 正雄	竹林 良	野仲 啓之助	宮原 真弓
今井 彰	加藤 明広	嵯峨 美穂子	竹林 陽子	畑中 和子	山本 友宏
井料 和彦	加藤 博文	桜木 弘子	田中 千枝	玻名城 昌子	山屋 房子
岩崎 龍彦	金崎 真由美	笹 翠	田村 武雄	福村 忠雄	吉田 啓義
植木 佳奈	川人 洋二	佐々木 等	津田 好美	藤原 勲	米倉 浩喜
上野 眞行	木村 友博	佐野 恭一	戸坂 恭毅	古野 淳	脇屋 俊介
生方 正好	黒川 正三	清水 真佐子	長池 陽次郎	細川 克己	
大兼久 輝宴	黒沢 誠登	須藤 三千代	長岡 慎	細岡 寛	
大澤 昌生	河野 啓子	瀬尾 勝保	長倉 穰司	本田 詩子	
大和田 皓	近藤 勉	高岩 紀子	新田 清枝	松澤 久美子	

〈発行日〉2026(令和8)年6月18日 〈発行人〉石丸 恭一

〈発行所〉東京フィルハーモニー交響楽団

〒163-1408 東京都新宿区西新宿3-20-2 東京オペラシティタワー8F Tel 03-5353-9521 Fax 03-5353-9523

プランチャイズ・ホール: Bunkamuraオーチャードホール 提携: 千葉市 文京区 軽井沢町 長岡市

〈デザイン〉米田デザイン事務所 〈表紙画〉ハラダチエ 〈編集協力〉ひとま舎

〈印刷〉欧文印刷株式会社

©Tokyo Philharmonic \*無断転載を禁ず(非売品)

## ～コンサートをお楽しみいただくために～

### ♪ チケットの座席番号もチェック！

・本日のコンサートは全席指定です。チケットに記載されたお席にご着席ください。

### ♪ 開演時間もチェック！

・時間に余裕をもってご着席ください。演奏中のご入場は、固くお断りいたします。楽章間の入場も楽曲の進行により制限させていただきます。

・曲間・楽章間での退場につきましては、体調に不安がある場合など、無理せずご判断ください。その際、周りのお客様の鑑賞の妨げとならぬようご配慮ください。

### ♪ 開演前に、お手元のお荷物や電子機器もチェック！

・演奏中の許可のない録音・録画は固くお断りいたします。

・演奏中に、時計やスマートフォン、その他電子機器のアラーム音やディスプレイの光が漏れないよう、電源をお切りいただくか、マナーモードの設定をいま一度ご確認ください。

・動いたときに音の出る衣類やバッグ等は足元に。

・のど飴類は開封時に音が出ないものをご準備ください。咳が出そうな日はあらかじめお手元やお口の中に。

### ♪ 演奏中に気を付けたいことも同時にご確認も！

・演奏は最後の余韻まで余さずお楽しみください。早すぎる拍手や声援は他のお客様の鑑賞の妨げとなる場合がございます。

### ♪ カーテンコールにもマナーあり！？

・全てのプログラムの演奏後、指揮者と演奏者がお客様にステージの上でご挨拶いたします(カーテンコール)。カーテンコールでは、お客様からの拍手や声援が音楽家への最大の賛辞となります。スマートフォンや携帯電話での撮影やSNSへの投稿は、他のお客様の感動の妨げにならぬよう、またプライバシーに充分配慮してお楽しみください。

※開場中・休憩時間・終了後の場内は撮影可能です。ただしステージ上の楽団員や関係者の接写はご遠慮ください。終演時のカーテンコールのみ、ご自身のお席から、スマートフォン・携帯電話でのみ撮影いただけます。前半の終了時(休憩の前)は撮影できません。「フラッシュは使用しない」「他のお客様の顔が映り込まないようにする」など、周囲へのご配慮をお願い申し上げます。

マナーを守ってコンサートをお楽しみください♪

# TOKYO PHILHARMONIC

東京フィルハーモニー交響楽団 2026-27シーズン定期演奏会



指揮

小林研一郎

Ken-ichiro Kobayashi, Conductor

## メンデルスゾーン ヴァイオリン協奏曲 ホ短調 Op. 64\*

Mendelssohn: Violin Concerto in E minor, Op. 64

## リムスキー=コルサコフ

## 交響組曲『シェエラザード』 Op. 35

Rimsky-Korsakov: Symphonic suite "Scheherazade," Op. 35

第176回東京オペラシティ定期シリーズ

8.6 (木) 19:00

東京オペラシティ コンサートホール  
Thu. August 6, 19:00  
at Tokyo Opera City (Concert Hall)

第1036回オーチャード定期演奏会

8.11 (火・祝) 15:00

Bunkamura オーチャードホール  
Tue/Holiday. August 11, 15:00  
at Bunkamura Orchard Hall



ヴァイオリン  
若尾圭良\*

Keila Wakao, Violin

主催: 公益財団法人 東京フィルハーモニー交響楽団

助成: 文化庁文化芸術振興費補助金(舞台芸術等総合支援事業(公演創造活動)) | 独立行政法人日本芸術文化振興会 協力: Bunkamura (8/11公演)

写真: 小林研一郎©三浦興一



オフィシャル  
サプライヤー

SONY

Rakuten Mobile

MARUHAN

LOTTE

ゆうちょ銀行



# TOKYO PHILHARMONIC

東京フィルハーモニー交響楽団 2026-27シーズン定期演奏会

指揮

チョン・ミョンフン

名誉音楽監督

Myung-Whun Chung  
Honorary Music Director

## シベリウス ヴァイオリン協奏曲

Sibelius: Violin Concerto in D minor, Op. 47

ニ短調 Op. 47\*

## ベートーヴェン 交響曲第7番

イ長調  
Op. 92

Beethoven: Symphony No. 7 in A major, Op. 92



ヴァイオリン  
マキシム・  
ヴェンゲーロフ\*

Maxim Vengerov, Violin

第1037回サントリー定期シリーズ

10.15 (木) 19:00

サントリーホール

Thu. October 15, 19:00  
at Suntory Hall

第177回東京オペラシティ定期シリーズ

10.16 (金) 19:00

東京オペラシティコンサートホール

Fri. October 16, 19:00  
at Tokyo Opera City (Concert Hall)

第1038回オーチャード定期演奏会

10.18 (日) 15:00

Bunkamura オーチャードホール

Sun. October 18, 15:00  
at Bunkamura Orchard Hall

主催:公益財団法人 東京フィルハーモニー交響楽団

助成:文化庁文化芸術振興費補助金(舞台芸術等総合支援事業(公演創造活動))| 独立行政法人日本芸術文化振興会 協力: Bunkamura (10/18公演)

写真:チョン・ミョンフン©上野隆文 マキシム・ヴェンゲーロフ©Davide Cerati 演奏写真:2025年11月1日ヨーロッパ・ツアー デンシングル(アントワープ)公演より©Britt Ryeckbosch



オフィシャル  
サプライヤー

SONY

Rakuten Mobile

MARUHAN

LOTTE

JP ゆうちょ銀行



**Tokyo Philharmonic**  
**Since 1911**

---

**Season 2026-27**

